DEX｜二つの評定を並べる

遂行機能障害の質問表・20項目版 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 評価者：_____

評価日：____年____月____日 使用版：_____

1 回答条件

対象期間・生活場面	
他者の情報	氏名・続柄： 接触頻度： 観察する場面：
実施方法・補助	本人：自記／読み上げ／その他 他者：自記／その他
影響する条件	理解・言語・疲労・気分・睡眠／補助内容：

2 20項目の得点を転記

正式な日本版用紙で回答・採点した後、同じ項目番号へ転記します。各項目0〜4点。空欄・未回答を0点にせず、処理は使用資料に従います。

項目	本人	他者	項目	本人	他者
1	____	____	11	____	____
2	____	____	12	____	____
3	____	____	13	____	____
4	____	____	14	____	____
5	____	____	15	____	____
6	____	____	16	____	____
7	____	____	17	____	____
8	____	____	18	____	____
9	____	____	19	____	____
10	____	____	20	____	____

本人合計	_____／80点 回答数：_____／20
他者合計	_____／80点 回答数：_____／20
参考：他者−本人	_____点 ※点差だけで病識障害と判定しない

高いほど評定された日常の問題が多い方向です。本人・他者の得点は合算せず、BADSの課題得点にも加えません。未回答がある場合、単純合計を満回答の得点と同等に扱わないでください。

確認したい項目番号：_____

DEX｜出来事と援助を確かめる

評定差を、具体的な生活場面へ Clinical record / 02

3 高い項目・差のある項目から一つ選ぶ

項目番号：____ 本人：____点 他者：____点 活動：_____

いつ・どこで	
本人が経験したこと	
他者が見たこと	
共通する事実・未確認点	

4 「できた」を工程に分ける

工程	本人が行ったこと	援助・代行した人と内容
開始・準備		
途中・修正		
終了・照合		

5 次に観察する活動

確認したい仮説	
同じ条件で見ること	
安全に確保する援助	
本人と共有する目標	

「本人は収納の完了を、家族は物品をそろえる援助を重視していた」など、見ている工程の違いを残します。回答を一致させるために元の評定を書き換えません。

DEX｜支援と変化を記録する

得点・活動機会・援助量を一緒に読む Clinical record / 03

6 再評価の条件と結果

比較する内容	前回	今回
日付・回答者・対象期間		
本人／他者 合計点		
本人が活動した機会		
本人が担当した工程		
促し・代行の内容と回数		
完了・時間・誤り		
本人・家族の負担		

7 カルテ・申し送り

架空例：本人は外出準備を自立と説明。家族は物品を事前に選び並べていた。本人は収納、家族は準備工程を評価していた可能性がある。物品一覧を用いて本人が選択から照合まで行う場面を観察し、促し回数と忘れ物を確認する。

事実・解釈	
次に試す支援	
確認する指標・時期	

正規資料・参考文献

日本版BADS・正規資料：Gakken 検査＆リハ
Takeuchi H, et al. Brain Struct Funct. 2013;218:1017–1032.
McGuire BE, et al. Front Behav Neurosci. 2014;8:352.
Vig A, et al. Neuropsychol Rehabil. doi:10.1080/09602011.2025.2591784

STROKE LAB編集の転記・臨床記録用紙です。質問文・回答選択肢・教示は正規の日本版用紙をご確認ください。